

東北教区報 2022年5月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」

「だから働く、あるいは生きる」

司祭 ヨハネ 八木 正言

以下は、ある単語を辞書で調べた際の説明です。ある単語とは何かおわかりでしょうか。

「立場上当然負わなければならぬ任務や義務」「自分のした事の結果について責めを負うこと。特に、失敗や損失による責めを負うこと」「法律上の不利益または制裁を負わされること。特に違法な行為をした者が法律上の制裁を受ける負担」。

そう、ある単語とは「責任」です。しかし、これでは今一つ腑に落ちない。と考えるのは私だけででしょうか。そこでその理由を考えてみました。そして思い至った結論は…。

これらの説明はすべて「義務」という言葉の説明にも置き換えられそうだからです。しかし「責任」を「義務」とまったくの同義語としてしまつて

果たしていいのだろうか、そう思います。なぜなら聖書に学ぶ「責任」は「義務」とは対極にある「自由」という概念から生じた言葉で、「人として支え合い活かし合いながら、共に豊かな生を生きることを



求め続けるための俯瞰的な視点」をもつことだと思うからです。

ダビデ王の時代に、ダビデの息子ソロモンによって神殿建設が進められることになりました。そのためにダビデは莫大な量の金、銀、青銅、鉄、木材などを寄進し、また民に

も寄進を呼びかけました。結果、おびただしい量の資材が献げられました。その際のダビデの言葉「取るに足りない私と、私の民が、このように自ら進んで献げたとしても、すべてはあなたからいただいたもの。私たちは御手から受け取つて、差し出したにすぎません」(歴代誌上29章14)は、自らの行為を果たすべき義務としてではなく、神の恵みに対する自由意思の応答として捉えています。これこそが「人として支え合い活かし合いながら、共に豊かな生を生きることを求め続ける俯瞰的な視点」をもった聖書の教える「責任」だと思ふのです。

新約聖書の「タラントンのたとえ」(マタイによる福音書25:14)では「責任」についてのさらに明確な対比が示されています。旅に出る主人が僕たちそれぞれに5タラントン、2タラントン、1タラントン預けるこの譬え話において、自由意思の応答として自らの「責任」を考えたのは、商売をしてさらに5タラントン、2タラントンを儲けた僕たち、義務としてしか自

らの「責任」を考えられなかったのは、1タラントン預かって穴の中にそれを隠した僕です。すなわち、義務としてのみ捉える「責任」は常に「言われたからやつた」「嫌々やつた」「そうしなければならぬからやつた」などの言葉で装飾され、かつ自分の保身がその中心にあるのに対して、自由意思による応答として「責任」は「こうしたら喜んでくれるだろうか」「こうするとみんなが便利だから、嬉しくなるだろうか」などそこに義務感はなく、他者の存在を視界に入れていなければ出てこない発想です。中心にあるのは他者の存在でありその幸せであるとも言えるのでしょうか。

(仙台基督教会牧師)



東日本大震災11周年記念の祈り

2022年3月11日(金)

東日本大震災から11年の時を経た3月11日、教区内の10教会を会場に記念の祈りが行われました。それぞれの地で、またオンラインを通して互いを心で感じながら、思いを一つに祈りを献げました。

切り離れた。27年前の阪神・淡路大震災でも被災者の方々が移転された復興住宅団地での孤独死が問題となったが、それは東日本大震災も同じで、震災前の交わりが断ち切られる状況がある。今でも続いているこのような状況に対して、東北教区の東日本大震災被災者支援プロジェクトが継続的に行っている『お買い物支援』や『お茶会』などの活動は共同体の交わり持続へのお手伝いとして、大切な働きだろう。もう一点心に留めねばならないことは、未だに多くの方が東京電力福島第一原子力発電所事故の放射能汚染により避難生活を余儀なくされていること。しかし国や東京電力は大量の汚染水を海に放出しようとしており、原子力発電所の存在そのものにも問題がある。環境問題も含めて、風力発電などの再生可能エネルギーの利用に大きく舵を切るときが来ているのだろう。私たちには未来の人や神様の被造物にとって安全な環境を受け継いでいく責任がある。『復興』とは物の復興も大切だろうが、それ以上に一人



記念講演

「東日本大震災後を生きる」(要約)

講師 和田 智行氏

私たちのミッション

小高区は2016年7月に避難解除されましたが、震災前に12000人ほどだった人口が現在は3800人程に

ひとりの人を、そしてその関係を大切にすることで、初めて私たちの復興がある。地球環境を破壊するようなエネルギーの用い方ではなく、地球環境と共に在るエネルギーを用いていくようにすることが、本日の福音書(マルコ2・19・22)のみ言葉に従って生きることではないか。」と語られました。

福島県南相馬市小高区にて起業家支援や地域復興に携わる和田智行氏を講師に迎え、お話を伺いました。逆境や試練の中にあっても常に発想を転換させ周囲を動かす波を作り続ける和田氏の姿勢は、震災復興だけではなく、教会生活や日々の暮らしの中でも私たちが前に向かって進んでいくための気づきを与えてくださいました。(編集部)

激減しており、高齢者率が高く、中でも子どもの減少が顕著です。このような状況から、人のいなくなった地域に税金を投じる意味があるのかと問う声も出ていました。しかし、私たちはこんな状況にこそいろいろな可能性があると感じ事業を起こしてきました。

私たちのミッションは「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」です。私たちに課題が沢山あります。

す。原子力災害によってもたされた課題はだれも経験したことがありません。ということとは誰も解決したことがないのです。課題とは裏を返せば全てビジネスの種です。ここにはしかない課題は、ここからしか生み出せないビジネスの可能性だと思っています。

具体的な取り組みと成果

まず初めに、生活するために必要な環境の整備をしました。次に取り組んだのが若い人が働ける場を作ること、仕事・生きがい作りです。その後、私たちだけで100の事業を作るのは到底無理なので仲間を増やそうと、事業コミュニティ作りをしました。それぞれ簡単に紹介します。・生活環境の整備

「食堂おだかのひるごはん」 当時はまだ居住は無理でしたが、工事や除染関係で5000人余りの方々がいました。温かい食べ物を出せば受け入れられるはずだとの勝算がありました。否定的な意見がほとんどでした。でも店舗を貸してくださるラーメン屋さんがあり、地元のお母

和田 智行氏 株式会社小高ワーカーズベース代表取締役。福島県南相馬市小高区生まれ。2005年に東京から旧小高町にUターン。東日本大震災により被災し避難生活を経験。小高区が帰還困難区域に指定されたため会津若松市に移住する。その後、避難解除前から小高区に戻り、小高ワーカーズベース創業。避難解除後に一家そろって小高区へ帰還し、さまざまな活動、事業を展開している。

さんたちの協力を得て開店してみると、結果は大盛況。蓋を開けてみると地元出身のお客さんが6割以上でした。避難先から時間とお金をかけて来てくれたのです。顔見知り会える、同じ境遇の人と話せるということが必要だったのだと思います。この店舗の成功は他の事業主の方たちの心も動かししました。諦めていた小高での事業をやってみようという人が現れてきたのです。店舗の貸主もラーメン屋を再開したいということになり、「おだかのひるごはん」は閉店することになりました。惜しんでくださる声もたくさん

ありました。私たちがミッションは地域の課題を解決すること。だからが課題を解決してくださるならそれでいいのです。

・仕事・生きがい作り

「アトリエiriserイリゼ」

避難解除になっても若い人は帰ってこないだろうと諦める人が多かったのですが、私はどうしたら若い人が帰ってくるのかを考えました。やってみようという仕事、働きやすい環境を作ることができれば、帰ってこないとしても通うことを考えてくれるかもしれない。そう思ってガラスのアクセサリー製作事業を立ち上げることにしました。働き手としてのターゲットは家庭の中で子育てする女性です。なぜなら、帰還するかを決めるのは家庭では女性だからです。この仕事は手に職が着く、成果報酬、在宅可能、可愛くおしゃれ。今では多くの人が働いてくれています。その結果、若い女性が増え、アクセサリーを買いに小高に人が来るようになり、カフェを開く人も出てきて地域の風景が変わってきました。

・事業コミュニティ作り

「Next Commons Lab 南相馬」

起業家誘致育成事業としてNext Commons Lab 南相馬を展開しています。これは地域外から移住・企業する人たちのサポートするものです。企業はあくまで個人で行うもので、それぞれが孤立し孤独を感じないようにすることが大切な要素の一つです。そこで私たちは共有するテーマ「予測不能な未来を楽しもう」を掲げています。未来に対して漠然とした不安を持っている人が多い現代。たとえ未来に対して精密な人生計画を作ったところで、今の世の中その通りにはいきません。でも未来が予測できないということは、それだけ私たちが想像できないような可能性が未来にはあるということです。だから未来を予測してそれに当てはめようと仕事をするのはなく、自分が欲しい未来を自由に発想して、それを作りあげるような仕事をしたい。そういった思いに賛同してくれる人が集まる場となっています。

私たちの地域を自立した地域に

多くの地域は課題解決のために企業誘致・工場誘致をしています。それに反対するつもりはありませんが、恐いのはそこに依存してしまうと地域住民自身がなにも動けなくなるということです。もしその企業・工場が撤退してしまったりなにも残らない。そうではなく、地域に生業を持っている企業、地域の課題を解決している企業が小さくてもいいからたくさんあって、お互いに連携している方が地域にとっていいはず。1000人を雇用する一の事業に支えられる社会ではなく、10人を雇用する100の多様な事業が躍動する社会で暮らしたい。もちろん上手いくことはばかりではないと思いますが、そういった大人の姿を見て育った子どもたちは、任せにせず自分たちで課題を解決しようとする人に育つと思うのです。

未来を楽しむ

視点を変えればチャンスが見えてきます。10年経っても人口が震災前の5割も戻らな

いと捉えがちですが、視点を変えれば「人口0人の町が10年で5000人に急増した！」と捉えることもできます。だれも経験したことがない旧避難指示区域は日本唯一で最後のフロンティアだと思っています。今の現代社会は満たされているようで不安や不満だらけです。なんのための経済活動なのでしょう。決して幸せとは言えない現状です。対して、私たちの旧避難指示区域はゼロどころかマインナからの出発です。だから「1」から作り上げられる。既存の価値観に囚われない、自分たちが暮らしたい社会を作っていける、そう思っています。

(文責 東日本大震災被災者支援プロジェクト 八木陽子)

主教堂聖堂での礼拝、講演会は東北教区YouTubeにて、また説教全文は教区ホームページにてご覧いただけます。



↑
礼拝録画の視聴
はこちらから



↑
講演会録画の視
聴はこちらから



聖クリストファ幼稚園

主幹教諭 及川 桂子

第66回卒園式が行われた3月15日は朝から雨。思えば3年前、この卒園児の入園式も春なのに雪が降っていました。少し残念に思っていたところ、卒園礼拝が始まる頃には青空が広がり、門出にぴったりの日になりました。卒園証書授与式ではちよつぱり恥ずかしそうな様子でしたが、4月から通う小学校名を発表する子どもたちの顔はとてもキラキラして素敵でした。

園生活のうち2年は制限が多いコロナ禍の中にあり、毎日の生活はマスク着用、お弁当は黙食、お泊り保育は日帰り、等々。そんな中でも楽

しく沢山の事が経験出来るように一緒に考え過ごしてきた19名の子どもたちをこれから応援していきたいと思います。

ところで毎年小学校の卒業式後、卒園生が園に立ち寄ってくれるので、今年も楽しみに待っていました。当日も寒く、雪の中、卒園生9名保護者10名、オンラインの参加者

1名と総勢20名が来て小さな同窓会のようなものでした。日曜学校に続けてきている子、卒園以来初めて来た子、県外からテレビ電話で参加した子たちが学校も皆違っているのに、ここに集まってくれたのです。

なんと嬉しいことでしょう。6年前より益々素敵で立派になった姿に感動したのですが、恥ずかしがったり色々な物を悪戯したり園内を大騒ぎしながら遊び回ったりとあの頃とは大きく変わっていない姿に、懐かしさも覚えました。保護者同士も久しぶりの会話に花が咲いて、あの頃に戻っていました。

当園は、保護者に送迎をお願いしているので、送迎の途中や子どもを待つ時間に保護者同士の交流が深まるという

のが常でした。しかし、コロナ禍で3密回避の必要が出てからは気軽に集まり楽しく話が出来なくなり、とても残念です。これまでの「密な付き合い」があったからこそ、こうして6年後に集まれたのではないかと思うのです。早く気にせず、元のような生活ができるよう願っています。

そして、成長した子どもたち、おうちの方がいつでもいいつまでもここに集まってくれるよう待っています。



5月1日は 「東北教区の青少年活動を 覚え支える主日」

今年も第101（定期）教区会において決議されました「東北教区の青少年活動を覚えて支える主日」を迎える期節になりました。今年は5月1日（日）がその日となっておりますので、覚えてお祈りくださればと思います。この主日に献げられた献金は、教区の青少年活動の活性化のためや、管区等

東北教区の青少年たちを覚える祈り

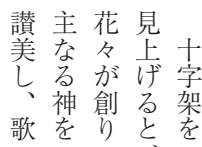
あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ、と聖書のうちに教えてくださった主よ、私たちは東北教区の教会の青少年を覚えてお祈りいたします。どうか一人ひとりの心を励まして、喜びと希望を持って信仰の道を歩むことができますようにお導きください。青少年たちが互いに出会い、祈り、語り合いながら交わりの輪を豊かにしていくことができますように。そして教会の中でまた社会の中でその務めを果たすことができますように。

主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

の全国的な活動へ教区青少年を送り出すために用いられま
す。
また今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で丸2年間実施できなかった教区青年キャンプの実現等、教区の青少年たちがイエス・キリストの宣教の器として成長できるような、具体的なプログラムを実施して参りたいとおもっておりますので、どうぞ祈り、応援してくださいと思います。
(教育保育グループリーダー)

マルタ 藤原 久子



主の招きに集う人々の姿が目に浮かんできます。私もみ側に居させて下さる神にと願います。主は、私が迷いの中にいると時をお与え下さり、道を明るく照らし待っていて下さいます。心が揺らぎ立つ事が出来ずにいると「雄々しかれ、私の名によつて立ちなさい」と救いのみ手を差し延べて下さいます。温かなやさしさに包まれ、勇氣と希望が湧いて来ます。み助けとお導きに感謝です。

イエス様との出会いは中学生の時、帰り道の橋の上で、小冊子を頂いたことに始まります。今では判るのですが、山上の垂訓でした。今でも大

高校生になり帰り道が一緒だった友達に「ねえ、教会に行ってみない」と誘われ通い始め、毎回の出席は出来ませ

んでしたが、楽しく過ごせていたできました。いよいよ進路を決めることになり、友達は保母を目指して東京に、私はまだ決められずにいました。

丁度その時に担任が、大館幼稚園で学業を終えてから将来幼稚園に勤務して下さる方を捜しているようだよ、と紹介してくださいました。やつと道が開かれると思いました。

受験する際、あなたは、何故保育者になりたいと思うのかとの問いに、私は子どもが好きだからですと答えましたが、後日「子どもが好きというのは大事ですが、子どもを愛するということがとても大切なのです。愛とは全てを受け入れるということです」とのお話が心に残っています。

学びを終え幼稚園勤務となり、9月に佐々木正市司祭様から教名マルタで洗礼を受けました。「マルタよ、なくてはぬものはひとつ」との悟しを嬉しく思っています。

その中でイエス様は、子ども
もの瞳の中に「いいですか、
私の大切な子どもを、あなた
に託しているですよ」と語り
かけて下さいました。

それから私は、イエス様をお乗せした口バのように、主のご用としての働きが出来ることを願って、保育の場に臨みました。

園生活の中で、子どもたちは今日どんな発見をするのでしょうかと、毎日が楽しく幸せな日々でした。仕事から離れた寂しく思いましたが、今は、四季折々の子どもたちの姿を思い浮かべながら過ごしていきます。

そして、これ迄多くの方々からお支えいただいたことを覚え、有難く思っています。

これからも、主の導きをお願いしながら「主は、いつもあなたをみ守っていて下さる」とお話下さった司祭様の言葉を胸に、心の小さなぼうけんの旅に、出かけていきます。

み手の中で すべては変わる
賛美に わがゆく道を導き
たまえ あなたのみ手の中で

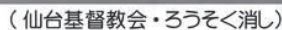
(聖歌 325 番)

(第19回 ろうそく消し)

今回は、祭壇周りで使うものですが、あまり目立たないものについて調べたところ、

高所に6本も置かれていたため、それを灯したり消すための長い柄がついています。ろうそくは祭壇に向かって右側のもの（6本以上ある時は

ました。その名も英語でイクステイングウイシャー (extinguisher) と言います。なんだか舌をかみそうな名前ですが、早い話はどうそくを消すための道具です。ある辞書では「帽子形の）ろうそく消し・中央から）から順次火を灯し、消す時には逆に左側（外から内へ）消していきます。これは世を照らす光がキリストの象徴である十字架から出るということを現しています。さてこの道具は普通ベスト

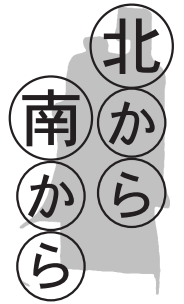


シユというのは「火・明りなどを消す」という意味で、そのものズバリの名前なんです。ね。もつとも、ろうそくを消すただけではなく、ろうそくを灯すための灯心が先端に組み込まれ、機能的に作られていますから、「ろうそく消し」

辞書によると、イクステイングウィツシュ フェイス (extinguish faith) という「信仰を失わせる」という意味になってしまえますから、やはり目立たない方がよいようです。

(教区主教)

(教区主教)



松丘聖ミカエル教会

コロナにより松丘保養園は2020年1月からの構内立ち入り禁止が継続されて、松丘聖ミカエル教会も制限下であり礼拝が行われていません。9月29日聖ミカエル日恒例の主教巡回も、2年連続で見送られてきました。

現在信徒は103歳を筆頭に90代2名と89歳の計4名です。直接会話が不可能ですが、青森聖アンデレ教会麦の会からイースターとクリスマスにカードを送り、それを職員が朗読してくれます。

盛岡聖公会

昨年末よりナオミ大星尚美姉、クララ鎌田邦子姉、ハンナ坂水勢恵子姉、アンデレ加藤昭夫兄、マーガレット柴田綾子姉と、これまで盛岡聖公会を支えてきた信徒の方々が主のみ許へと召されました。コロナ禍で多くの教友とのお別れは叶いません

でしたが、ご親族に見守られながら、それぞれの在りし日のお姿を思わせる心のこもった葬送式が捧げられました。

召された方々とご家族のために祈りください。

新庄聖マルコ教会

冬季期間は降雪の多い新庄ですが、今季は特に多く、窓ガラスが割れるなどの被害もありました。少ない信徒で教会を維持することが大変ですが、幼稚園で使っていた厚手のカーテンで礼拝堂を仕切り、暖房費の削減などに努めています。

今年は暖かくなるのも早く、ほぼ積雪は消えましたが、少ない人数でどのようにして礼拝を維持していけるのか、今年の課題となります。祈りをお願いいたします。

常置委員会報告 (第5回・3月6日)

◆常置委員長報告

2月28日(月)開催の東日本宣教協働区協働委員会について報告。前期常置委員会からの引き継ぎ事項への取り組みについて報告。

◆執行機関報告

主事会議報告。教区財務状況について前回以降の進捗状況を報告。

◆協議事項

(1) 2022年4月1日付人事異動に関する教区主教諮問について。公示日を3月9日とすることを確認、その他内容を適当と認める旨答申した。

(2) 2022年度信徒奉事者(分餐奉仕協力許可) 推挙について。仙台基督教会より1名が推薦され、これを適当と認め推挙した。

◆次期主教選挙を行うかどうかの意見集約への道程に関する件。4月9日(土) 13時から15時までの日程で仙台基督教会を会場として研修会を開催することを決議。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

3月11日、東日本大震災11周年記念の祈り・オンライン講演会を開催しました。今回は特に教区保育連盟会長にお願いして園に参加を促した結果、40数名の先生方、50数名の園児たちが視聴し礼拝しました。午前中にお祈りした園

やクラス毎に祈った園もありました。礼拝と講演録画はアーカイブされて、YouTubeで視聴できます。教区ホームページにアクセスしてみてください。それを利用して、後日視聴する予定の園もありました。

地域支援活動の買い物支援バスは3月3日、水曜喫茶は4月13日に再開しました。3月17日予定していた広畑お茶会は、16日発生した福島県沖大地震により中止、4月22日に延期しました。新地町は大地震の影響で断水となり、現地のメンバーと連絡対応、災害対応デスクと情報共有しながら、2日後の18日ペットボトル2リッター6本入り6ケースを届け、配達しました。22日断水解除、復旧しました。(リーダー・司祭 長谷川 清純)

永遠の平安

マーガレット 柴田 綾子

(3月12日・盛岡)

エリザベス 鈴木 ツマ

(4月2日・盛岡)

マリア・アグネス 室井 きる

(4月7日・仙台)

5月逝去者記念聖餐式

5月10日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教

説教 李 贊熙 司祭

司祭 Allan Worthington Cooke

1944年5月6日逝去

宣教師 Miss Irene P. Mann

1927年5月19日逝去

司祭 アントニオ 影山 博美

2020年5月20日逝去

宣教師 Miss Dorothy F. Little

1940年5月28日逝去

司祭 バルナバ 与賀田 千秋

1997年5月28日逝去

司祭 ナタニエル 佐々木 正市

1996年5月29日逝去

お知らせ

ルイジアナ教区第11代教区主教モリス・K・トンブソン Jr. 師は2022年11月に退任されます。次期教区主教選挙は5月14日に行われます。覚えてお祈りください。

5月8日は「神学校のため」の主日です。神学校の働きに携わる方々、またそこで学ばれる方々を覚えてお祈りください。